

独、米、ソ連、日本は今実用的中層トロールを開発し、魚探と組み合わせて適当な深さのイワシ類のような沖合浮魚を漁獲できるように発展した。魚探で魚群の所在を知ると共にトロールのヘッドロープにつけた魚探で網の深さを知るだけでなく、網の中にはいる魚と網の下を行く魚を知ることができる。網の深さを調節してその魚をとる。従つてふつう表層に浮上しない西阿沖のイワシのような魚をこのようにして漁獲することができる。

西アフリカ沖の魚の低廉な大生産に拡大さすこのような漁業技術や新事実から実現するにはまだずいぶん時間がかかるだろうが、それはすでにほじまつている。

1964年2月ザンジバルで、甲殻類のシンポジウムが開かれた。（宇田 道隆）

#### 4 太平洋に配属されたフランスの新海洋調査船コリオリ号

フランス国海外科学技術省(ORSTOM)所属の新鋭海洋調査船コリオリ号(Le Coriolis)が1963年10月31日進水、1964年10月17日南太平洋ニューカレドニアのヌーメア港に配属され活動を開始した。同船の名は海洋力学で有名なコリオリの力(地球自転偏向力)の定理を1835年発表した学者 Gaspard-Gustave Coriolis (1792~1843)に因んだ。長さ37.6m、幅8m、吃水4.1m、450総トン、航続8000マイル、30日、主機350馬力(ディーゼル)2基(計700馬力)船速巡航11ノット1.5~12.5ノット(可変)乗員30名(士官7、クルー12、科学者11)。実験室2(55m<sup>2</sup>)航海計器および測器は、自動パイロット、チャイロコンパス、それと組合せの Raytheonレーダー(50マイル)、600m深航海用音響測深機、12000m可測Atlas型音響測深機、直径12mmの鋼索4800m巻ウインチ(水力式5トン)直径6mmの8000m長鋼索又は4mmの12000m鋼索でのブランクトン採集、4mmの4000m深まで測れる海洋物理学的観測調査具、GEKは300mワイヤで、BTは1500m長(3mm)ワイヤ、鮪延縄一式、電気的ネットゾンデ(1500m深用)を持つ。生餌タンク用ホルド2、中波、短波無電、実験室、居室エアコンデション、自記表面水温計、遠心分離機、冷凍室、真空水圧濾過装置、ヒーター等を具える。（宇田 道隆）

#### 5 ベルーのアンチヨビー漁獲制限

出所：Ocean Fisheries Oct. 1965. p28。

1500隻のベルーのアンチヨビー(カタクチイワシ)漁、船が1965年8月キヤヤオ、チンボテ、フアーメイ、スーベ、フアチヨ、イロの漁港で、ベルー政府の漁業禁止令によつて空しくとどまつた。さらに厳しい制限令がカタクチイワシ乱獲防止のため将来出ることが予想される。これは1962年9月海洋研究所の勧告に従つた措置である。8月は元来最も漁獲の少ない頃なので業界と科学者の妥協によつてこの月を禁漁月に選んだ。その間船、工場の修理などをする。海洋研究所の Zacarias Popovici 博士によれば「カリフォルニアのサーヂンが消失し